



# 地域連携センター Newsletter

## 特集【健科大開学10周年】

### より良い大学にしたい

学長 土井 邦雄



6年前に私は本学の学長として着任しました。「本学をより良い大学にしたい」との強い願望を持っていたのですが、着任後にそれは容易な仕事でないことが分りました。多くの教員には、「自分たちがより良い大学にするため提案してもなかなか実現できない」との思い込みがありました。設置者である県庁ともより良い関係を築く必要性を感じました。そこで、私は本学をより良い大学にするには、県庁の支援を一層得ることが必要不可欠と考えました。さらに、県庁の支援を得るには「群馬県民が健科大学は良い大学だ」と思う県民の支援が前提条件だと考えたのです。

そこで、現在「土井プラン2010」として知られている中長期計画を作ったのです。このプランには「1. 研究活動の活発化、2. 博士課程の設置準備、3. 地域連携研究センターの設置準備、4. 大学の知名度の向上、5. 大学内の教職員と学生との間のコミュニケーションの改善」の5項目が含まれています。この6年の間には、実現したものもありますが、今後継続する努力が必要なものもあります。地域連携センターは実現した例ですが、始まったばかりで地域への貢献度を考えると今後の大きな努力が必要です。県庁との関係は大きく改善されたと思います。世界中には多くの優れた大学があります。ヨーロッパには数百年の歴史を持つ大学が多数あります。大学10周年は、まだ赤ん坊の域を出ませんが、今後は、本学の優れた教員と次の指導者の活躍を期待したいと思います。特に看護学と診療放射線学に関する大学の歴史は極めて短いために、多くの試練と困難があります。しかし、本学の教員と卒業生は、将来、看護学と診療放射線学の新しい歴史に大きく貢献することが可能だと思います。そこで、大きな視野を持って、日本だけでなく世界に通用する大学になってほしいと念願しています。本学は県内の病院や医療施設の多くの方々のご支援によって成長することができましたが、今後も継続したご支援とご協力をお願いいたします。

### ～健科大10年のあゆみ～

- 平成17年 4月 群馬県立県民健康科学大学開学
- 平成21年 4月 群馬県立県民健康科学大学大学院  
修士課程開設
- 平成24年 4月 地域連携センター開所
- “ 看護学教員養成課程などの事業開始
- 平成25年 9月 地域連携センター Newsletter 発行
- 平成26年 4月 公開授業の開始
- “ 看護学部保健師課程選択制始まる  
(1学年30名定員)

本学では、開学以来800名以上の卒業生・修了生を輩出してきました。(H26卒業生まで)

＜学部卒業生＞	
看護学部	555名
診療放射線学部	245名
＜大学院修了生＞	
看護学研究科	26名
診療放射線学研究科	12名

卒業生の多くが医療専門職者として、修了生の多くが指導的役割を担う医療専門職者として県内をはじめ全国で活躍しています。

開学10周年

## Message 事務局OBOGの声

群馬県議会事務局長 大矢 一 (H24年度 県民健康科学大学事務局長)

平成24年4月、県民健康科学大学に赴任して最初の行事が地域連携センターの除幕式でした。益々地域に貢献する大学になる第一歩と一緒に踏み出せたことをとても嬉しく思いました。62年にも及ぶ歴史と伝統の中で短期大学、4年制大学そして大学院まで持つ大学へと進化を続ける県民健康科学大学がDNAとしてしっかり守らなければならないこと。それは地域への貢献だと思います。全国、世界にも飛躍できる大学の一層の高度化とともに教職員が力を合わせてDNAをさらに開花させていくことを期待してやみません。



メッセージをくださった大矢議会事務局長

群馬県発達障害者支援センター 石田 祐子 (H21～23年度 県民健康科学大学総務会計係長)

開学10周年、誠におめでとうございます。私は土井学長御就任時の21年度から僅か3年間の事務局勤務でしたが、予算担当として地域連携センター設置に向け、日々先生方と共に奔走し、充実した期間を送らせて頂きました。中でも看護学教員養成課程の開校や放射線教育・研修事業実施に向けたMRI装置の導入については、自分の力量不足を思い知らされながらも実現できた喜びを味あわせて頂き、大変感謝しております。『学生の活気溢れる場所』が職場という幸せの中、少し若返った？気もいただきます。今後も益々の御発展を願っております。

## Kenkadai A to Z

### ■ORIGIN：大学名の起源

本学の大学名は、「県民の健康のための」大学と理解されることが多いようですが、実は、「県民の意志によって設置された」大学という意味を含んでいます。平成12年、県民の意識調査を行ったところ、県民の方々は、非常に健康に関心があり、県立医療短期大学をご存知で、しかも、早く大学にしたらと考えていることが明らかになりました。この調査結果が大きな後押しとなり、開学が実現しました。このような経緯を起源として、本学は「群馬県立県民健康科学大学」という、公立大学一、長い名前の大学になりました。

## お知らせ

### 「看護研究セミナー」の受講者を募集しています！

看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するためのセミナーを開催します。

第1回	看護研究計画書の作成	4/29(水・祝) 9:30～12:00
第2回	看護研究のための文献検索と文献検討	4/29(水・祝) 13:00～15:00
第3回	看護研究における倫理と手続き	5/10(日) 10:00～12:00

※各回とも会場は県民健康科学大学で、受講料は無料です。

※お申込み等の詳細については、本学ホームページをご覧ください。

○「看護研究セミナー」に加えて、研究テーマに沿って看護研究の一連の過程を本学教員が支援する「看護研究個別支援」を実施します。

○さらに、これまでに看護研究個別支援を受講された方に、支援の経過や研究内容を発表いただく「看護研究個別支援成果報告会」を、第3回看護研究セミナーの終了後に開催します。

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1  
TEL:027-235-1211 FAX:027-235-2501 URL:<http://www.gchs.ac.jp/>